



大阪TOWNタウン

伝統芸能 **すずめ踊り**

堺市

十七世紀初頭、堺の石工が仙台で創作したとされ、故郷には持ち帰られることのなかった仙台市の伝統芸能「すずめ踊り」が四百年ぶりに堺市に「里帰り」し、市民らの普及活動が活発になっている。また、今年の「堺まつり」には初めて本場・仙台の踊り手が参加。「すずめ」が都市交流の懸け橋となるべく羽ばたき始めた。

仙台から400年ぶりの里帰り



堺市で普及会が発足し、仙台市との交流の懸け橋となる「すずめ踊り」

華麗な群舞、観客を魅了

すずめ踊りは一六〇三年、仙台城完成を祝う宴席で堺の石工が即興で踊ったのが始まりといわれ、踊る姿がスズメに似ているのが伊達家の家紋が「竹にスズメ」だったため名前が付いた。法被姿に扇子を持ち、しの笛や太鼓のお囃子(はやし)に合わせて踊る。堺市では二年前、仙台でその存在を知った有志によって「堺『囃組』」が結成され、すずめ踊りのPRや仙台市との交流を続けていた。

地道な活動は実り、今年十月二十八日にはすずめ踊りの魅力を知った市民らによって「堺すずめ踊り普及会」が発足。「仙台青葉まつり」への参加や「各行政区に最低一団体を設立する体制づくり」などが重点目標として定められた。

同会の前田秀一さん(56)は「地域のコミュニティ活動の一端として取り上げてもらうなど、堺の人に知ってもらいたい」と意気込んでいる。

来年四月に政令市に移行する堺市も、先鋒格の政令市・仙台市との親交を深めようと協力。先月行われた「堺まつり」で仙台市から仙台すずめ踊り連盟の有志を招いた。精鋭を率いた同連盟の副会長、谷徳行さん(58)は「最高のものを見せるだけ」と、パレードなどで演舞を披露。華麗な群舞や独創的な舞で観客を魅了した。「堺の皆さん」の歓迎ぶりがうれしかった。これからも協力を惜しまない」と力強く語っていた。

さらに、仙台すずめ踊り連盟の初参加を祝う歓迎会の場で「堺『囃組』」を団体にした「泉州すずめ組」が新たに誕生。代表の中島豊さん(55)は「基本的な動作は決まっているものの、子どもから大人まで自由に楽しめるころはまるでジャズ制づくり」と話し、これからの飛躍を誓った。

四百年の時を超えたすずめ踊りの里帰りは、堺の新たな「顔」となるべく新たな段階を迎えている。(豊野由慶記者)